

ワクチン予防は確実に！

～予防接種全般～

◆予防接種の意義

予防接種は各種の病原体に対して免疫を持たない感受性者への免疫付与あるいは、免疫の増強効果（ブースター効果）を目的に行われます。なかでも、感染予防や発症予防、重症化予防、感染症のまん延予防、感染症の排除・根絶などを目的としています。

妊娠前の女性に接種することで、妊娠中の妊婦自身の発症・重症化予防や胎児への影響を予防することを目的に行う予防接種もあります。

◆予防接種の対象疾患

日本における予防接種には、予防接種法に基づき実施される「定期接種」、病原性の高い新型インフルエンザが発生した場合などに実施される「臨時接種」、そして特別措置法に基づく「特定接種」、「住民接種」があります。令和3年から始まった新型コロナウイルスワクチンの接種については、予防接種法上の「臨時接種」として実施されています。

【定期の予防接種対象疾患】

¹ A類疾病	インフルエンザ菌b型(Hib)感染症、小児の肺炎球菌感染症、B型肝炎、ロタウイルス感染症、ジフテリア、百日咳、破傷風、急性灰白随炎(ポリオ)、結核(BCG)、麻疹、水痘、日本脳炎、ヒトパピローマウイルス(HPV)感染症
² B類疾病	インフルエンザ、高齢者の肺炎球菌感染症
¹ A類… 発病すると重症化したり、後遺症を残す病気の予防および <u>集団予防</u> に重点を置き、接種の努力義務が課せられています。	
² B類… 個人の発病または重症化の予防に重点を置き、対象者本人が接種を希望する場合に実施されるもので、努力義務は課せられていません。	

◆ワクチン接種後の注意

ワクチン接種後はその場でしばらく(30分程度)安静にすることが必要です。まれではありますが、アナフィラキシーなどの重篤かつ緊急的対応が必要な副反応は、接種後直ち(30分以内)に生じることが多いという理由からです。また、ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンや第2期のDTトキソイド、日本脳炎の第2期や特例対象者、風疹の第5期、新型コロナウイルス

ワクチンのように年長児や成人に接種する場合、血管迷走神経反射による失神が起こる可能性があります。接種直後は背もたれのある椅子にゆっくり腰かけて少なくとも30分間は体調の観察をすることが重要です。

◆よくある質問(Q&A)

Q1 予防接種をすればその病気にかかることはないのでですか。

A1 予防接種をすれば、接種を受けた多くの人がその疾病に対する免疫を獲得しますが、その免疫効果は決して100%ではありません。ワクチンによって得られる免疫の獲得率は、ワクチンの種類によって異なります。抗体を獲得できなかった人は、予防接種後もその疾患に罹患する可能性があります。

Q2 1回目の接種で発熱しました。

次回の接種はどうしたらよいでしょうか。

A2 前回の接種で、接種後早期に発熱などの症状が見られた場合は、再接種後に再度同様の症状が現れることがあるため、注意が必要です。軽度の発熱であつ

た場合には、次回接種を行うことができませんが、高熱の場合には、接種対象者の年齢、疾病の流行状況なども含め、総合的に判断する必要があります。

Q3 重篤な急性疾患にかかっている場合は、接種が可能でしょうか。

A3 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合は接種不適合者に該当します。このような状態の場合、病気の進展状況が不明であるため、主治医に確認のうえ、接種の有無をご検討ください(急性疾患であっても軽症と判断できる場合には接種を行うことができます)。

※令和5年度の新型コロナウイルスワクチン接種については別途お知らせします。

○お問い合わせ

本庁健康福祉課保健衛生係

☎ 43-2836

佐賀支所地域住民課保健センター

☎ 55-7373

